

資料 7

一部非公開

情報処理安全確保支援士について

商務情報政策局
情報技術利用促進課



情報処理安全確保支援士（登録セキスペ）制度

- サイバーセキュリティの確保を支援するため、セキュリティに係る最新の知識・技能を備えた専門人材の国家資格として、「情報処理安全確保支援士」（通称：登録セキスペ）制度を創設。2020年までに登録者3万人超を目指す。
- 平成31年4月1日時点の登録者数は18,330人。

- ◆ 政府機関や企業等のサイバーセキュリティ対策を強化するため、専門人材を見える化し、活用できる環境を整備することが必要。
 - ➡ 情報処理安全支援士の名称を有資格者に独占的に使用させることとし、さらに民間企業等が人材を活用できるよう登録簿を整備。
- ◆ 技術進歩等が早いサイバーセキュリティ分野においては、知識等が陳腐化するおそれ。
 - ➡ 有資格者の継続的な知識・技能の向上を図るため、講習の受講を義務化。
- ◆ 民間企業等が安心して人材を活用できるようにするには、専門人材に厳格な秘密保持が確保されていることが必要。
 - ➡ 業務上知り得た秘密の保持義務を措置。

<参考> 情報処理安全確保支援士（登録セキスペ）の全体像



サイバーセキュリティ分野初の登録制の国家資格として、2016年10月に創設

「情報処理の促進に関する法律」第6条（情報処理安全確保支援士の業務）

情報処理安全確保支援士は、情報処理安全確保支援士の名称を用いて、サイバーセキュリティに関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うとともに、必要に応じその取組の実施の状況についての調査、分析及び評価を行い、その結果に基づき指導及び助言を行うことその他事業者その他の電子計算機を利用する者のサイバーセキュリティの確保を支援することを業とする。

法律名	情報処理安全確保支援士
通称名	登録セキスペ（登録情報セキュリティスペシャリスト）
英語名	RISS：アール アイ エス エス (Registered Information Security Specialist)

【ロゴマーク】



説明

フレーム：盾（シールド）を意味し、様々な脅威から情報組織や社会を守る存在であること、深みのある青は誠実と冷静さを意味する。

地球：国際社会とデジタル社会を現す。

羽：ITによる人々の生活と拡がりや飛翔を意味する。

4つの星：技術水準 レベル4 という重要性の高い資格として目指す存在となることをイメージ。



<参考> 情報処理安全確保支援士（登録セキスペ）の全体像

1. 登録セキスペになる資格を取得する段階

① 試験合格者 (情報処理安全確保支援士試験)

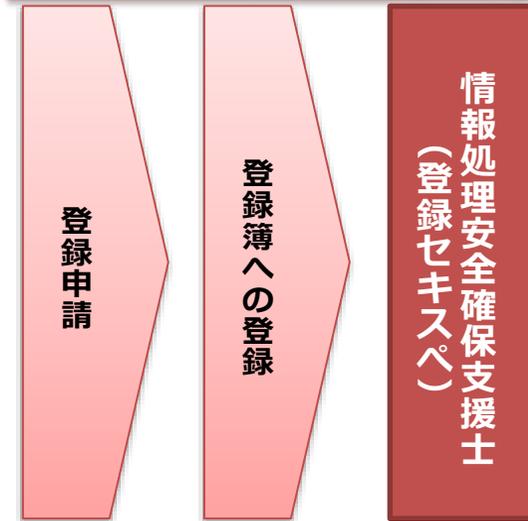
- ・情報セキュリティスペシャリスト試験をベースに新設
- ・受験手数料（5,700円）
- ・全部又は一部免除制度
 - 情報処理技術者試験との連携による一部免除
 - 国内外の類似資格合格者や大学等でセキュリティを専門とする教育課程の修了者を一部免除
- ⇒（CoE：全部免除、大学・大学院・専門学校(4年制)：午前Ⅱ免除）
2017/9/29施行

② 資格試験合格と同等以上の能力を有する方

- ・国が指定するポストであって、当該ポストでの従事年数が一定期間を超える場合を想定。
- ⇒第一弾告示（警察・自衛隊）
2017/4/7施行
- ⇒第二弾告示（内閣官房、試験委員）
2017/9/29施行

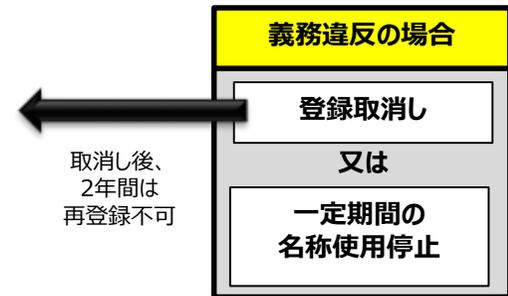
登録セキスペとなる資格を有する者

2. 登録セキスペになる段階



※登録簿への登録、登録証の交付は、次のとおり年2回とする
 4月1日【申請締切日：2月15日（当日消印有効）】
 10月1日【申請締切日：8月15日（当日消印有効）】

- ・欠格事由に該当する場合は登録不可。
- ・登録手数料（10,700円）及び登録免許税（9,000円）の納付が必要。
- ・登録簿記載事項に変更が生じた場合、届出及び変更手続（手数料（900円））が必要。



3. 登録セキスペとして活動、資格を維持する段階

登録情報の公開

必須項目（登録番号等）を除き、公開する項目は選択可能。

資格名称の独占使用

登録セキスペ以外が名称を使用した場合は、30万円以下の罰金刑が課される。

登録セキスペとしての義務遵守事項

(1) 信用失墜行為の禁止

(2) 秘密保持

・義務に違反した場合は、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金刑が課される。

(3) 講習受講

・オンライン講習を年1回、集合講習を3年に1回受講。
 (やむを得ない事由の場合、期限延長措置あり)
 ・所定の要件を満たした者は、講習のみなし受講を認める。(2018年4月～)

人材の見える化

人材活用の安心感

人材の質の担保



<参考> 登録制度活用のメリット

「登録セキスぺ」の位置づけ、業務範囲

■ 登録セキスぺの活躍する場面は、情報システムのライフサイクルの全般に及ぶ。

登録セキスぺの想定される業務

1. 経営課題への対応

- ・セキュリティポリシー対策支援・実施指導
- ・組織・技術上のリスク評価
- ・上記のための監査・検査・調査・分析

2. システム等の設計・開発

- ・設計段階でのセキュリティ対策
- ・セキュアコーディングの推進
- ・セキュリティテストの実施・評価 等

3. 運用・保守

- ・ポリシー実践、脆弱性への対応
- ・品質管理、情報収集
- ・教育・啓発活動 等

4. 緊急対応

- ・緊急時に備えた準備
- ・インシデント対応の全体統制
- ・インシデント処理・復旧



<参考> 登録制度活用のメリット

活用企業インタビュー（カブドットコム証券株式会社様）



「**情報処理安全確保支援士制度は、高度なリスクマネジメント実現の重要ポイントである、“業務執行部門とリスク管理部門の独立したディフェンスライン体制”を支えるツールの1つです。**」

カブドットコム証券では「リスク管理追求型の次世代オンライン証券システムを創る」をコンセプトに、セキュリティを最重要視して業務を遂行しています。そのため、**業務執行部門とリスク管理部門が独立したディフェンスライン体制をとり**、業務遂行の中で、常にお客様の資産を脅かすリスクを可視化し、管理しています。我々はITを前提とした金融ビジネスを展開しているため、情報セキュリティに関するリスクは最大のリスクと考え、経営陣も一体となってサイバーセキュリティ対策に取り組んでいます。



そのような体制下で働く人材に求められることは、新たな脆弱性情報の発生や新たなテクノロジーの導入などの変化があった時に「当社のビジネスのどこに影響するのか？」と、**ビジネスと技術の両方の知識をもって影響を測る力**です。そのために、普段から経営層との会話の機会をもち、経営層の視点に触れておくことや、各部門間で役割分担を明確にしながらい信頼できる関係を構築しておくことが重要と考えています。



そこで**情報セキュリティにおける社員の共通言語や、共通の認識・理解・レベルを作る**ために、情報処理技術者試験・情報処理安全確保支援士（登録セキスペ）制度を活用しています。具体的には、**全ての情報システム部門、リスク管理部門には登録セキスペを配置し、CSIRTメンバーは登録セキスペであることを基準として選定**しています。その結果、金融関連企業の中ではトップレベルの登録セキスペの登録人数となっており、これは経営陣も一体となってサイバーセキュリティ対策に取り組んでいることを示すデータの1つです。

これからは、更に高度なサイバーセキュリティ対策を実現するために、見えないリスクも可視化して管理していく活動が求められています。それには、経営目標達成とのギャップを分析し「いつまでに何をやる」を約束させる経営的な視点やスキルが必要と考えています。当社の登録セキスペにはこういった視点・スキルを身につけていきたいです。

社員の登録セキスペの登録に積極的なユーザ企業はまだ少ないようですが、それはビジネス遂行におけるITの位置づけが、まだ「文房具」という意識にとどまっているからではないでしょうか。当社ではITはビジネス遂行に欠かせないものであり、サイバー攻撃が大きなビジネスリスクと認識し情報処理安全確保支援士を登録しています。**ユーザ企業においてもビジネスに対する危機意識が高まれば、ITガバナンスに真剣に取り組まざるを得なくなるため、情報処理安全確保支援士のような人材はますます必要となってくると思います。**

カブドットコム証券株式会社
常務執行役（CIO）阿部 吉伸様
システムリスク管理室 伊藤 公樹様
システムリスク管理室 中村 健太様
（全員が情報処理安全確保支援士）

<https://www.ipa.go.jp/siensi/data/interview.html#section1>



<参考> 登録制度活用のメリット

活用企業インタビュー（NRIセキュアテクノロジーズ株式会社様）



NRIセキュアテクノロジーズ株式会社
事業推進部 与儀大輔担当部長（左）
人事部 西谷昌紀人事課長（右）

「情報処理安全確保支援士は当たり前前の資格と考えています。」

NRIセキュアテクノロジーズは、NRIグループにおける情報セキュリティ専門の中核企業で、お客様の情報セキュリティにおける課題解決をワンストップで支援するプロフェッショナル集団です。サイバー攻撃のリスクが増え続けるなか、我々は倫理観と専門性を兼ね備えた専門家の育成こそが重要と考え、人材育成に積極的に投資しています。

例として、セキュリティ分野のスキル習得目標として、CISSPやSANSのGIACなど、グローバルな高度セキュリティ資格の取得を推進しています。一方、日本の国家資格である情報処理安全確保支援士についても「**セキュリティ専門家にとって当たり前前の資格**」として、登録・講習費用は会社が負担しています。結果、多くの社員が登録しており、これは、**セキュリティサービスを提供する会社としての技術力の証明にもなると考えて**おります。

現在、様々な企業において、情報システム部門（コーポレートIT）だけでなく事業部門が、課題解決やビジネス拡大のために次々と新しいITサービスを探し活用する「ビジネスIT」が広がりつつあります。そこでは、情報処理安全確保支援士をはじめ、**スピード感をもってセキュリティ対策を考えられる人材が数多く必要**です。当社でも、さらに高度な専門性をもつ人材を育て、社会の安全に寄与していきたいと考えています。

<https://www.ipa.go.jp/siensi/data/interview.html#section3>

